

愛隣館研修センターニュース

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町151 Tel:075-621-3849 Fax:075-621-1579

mail to:info@airinkan.net 振替:012020-5-39321

編集発行所:社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター <https://airinkan.jesusband.jp>

発行責任者:平田 義



121号

癒しの場である中央公園を 大切に続けよう！

ひら た だし
平田 義

向島ニュータウンには、ステキな公園があります。東西約600m、南北40～50mの細長い公園、向島中央公園です。多くの樹木が植栽され、桜、つつじ、紅葉など、四季の移ろいを感じることができます。その公園を地域に愛される「自然豊かな公園にし続けたい」との願いから、向島中央公園愛護協力を立ち上げた方が、山崎洋一さんであり、福井義定さんです。今号では、向島から滋賀県に引っ越された、山崎洋一さんに、向島中央公園への思いを綴っていただきました。これからも山崎さんの思いを引き継いでいける地域にしたいと願っています。是非ご一読ください。



▲アオギリと山崎さん

向島中央公園の清掃活動と自然の保全

もとむかいじまちゅうおうこうえんあいごきょうりょくかいかいいん やま ざき よう いち
元向島中央公園愛護協力会会員 山崎 洋一

私は、2025年6月末、30年住んだ向島から滋賀県大津市美空町に引っ越しました。生まれた三重県伊賀市は、山に囲まれた盆地で子供のころから将来は海が見える土地に住みたいと思っていました。引っ越し先の美空町は、海は見えませんが琵琶湖が見える自然豊かな素晴らしいところです。

私の向島中央公園の清掃活動への関わりは、十数年前に「愛隣館研修センターニュース」の取材を受け、清掃活動の動きについて一度お話しをしたことがありましたが、1995年向島へ住み始めた頃から、毎日のように向島中央公園の園道をジョギングしていました。その頃は、園道に結構生ごみが落ちていたりしてジョギングした後、これを片づけるようにしていました。そのような些細なことですが、定年退職後、地域の唯一の緑地であり、住民が散歩する憩いの場所である素晴らしい公園をきれいにしていこうという思いもあり、2008年2月、向島中央公園愛護協力を結成し、向島中央公園の清掃活動を始めました。この頃になるとこの団地を造った京都市住宅公社が弱体化し、公園の管理が住宅供給公社から京都市に変わり、市が行う清掃の回数が以前よりかなり少なくなっていました。愛護協会の結成をチラシで呼びかけると十数名の住民

が集まりましたが、3ヶ月もすると半数になりました。その後、会員7～8名が清掃活動を続けてきました。最初の参加者のなか中2～3人は、今も活動に参加してくれています。今は、愛護協会の活動に参加する住民が高齢化で止め、新しく参加する住民は少なく、活動の継続は難しくなっています。

2012年に、公園の川や池の清掃も実施しようと愛隣館の職員の方や利用者の方が清掃活動に参加してくれるようになりました。この機会にごみがない公園にするだけでなく、公園の川や池にホタルやサワガニ、メダカなどが育つ自然の豊かな癒しの公園にするための取組みを始めました。活動への愛隣館の職員の方々等の参加は、その後の愛護協会の清掃活動の大きな助けとなりました。

取組みの一つは、2013年に始めたホタルが公園に「生ずるための取組み」です。まず、今まで京都市が行ってきた公園の川をバキュームカーで洗浄する方法から愛護協会が自らの手で清掃する方法に代えました。そして、滋賀県守山市のホタル資料館の見学や伏見工業高校の生徒に公園の川の水がホタルの生息に適しているかの水質検査をしてもらうなどをして、兵庫県のホタル業者から」ホタルを購入し、愛隣館の「にっこり

フェスタ」の前夜に「ホテルのタベ」の催しとして放流しました。その放流したホテルが2年11から11生を始めた。この取り組みは、多くの地域住民に公園の自然に関心を持ってもらう今も続く取り組みとなりました。

二つ目は、巨椋池にあったハスやオグラコウホネ、ガマなどの水生植物を復活させる取り組みです。巨椋池は、1930年代までこの地にあった面積700h以上もあった大きな池ですが、今は、干拓され向島ニュータウンの西に広がる農地になっています。その農地に向島ニュータウンは建設されています。この活動は地味な取り組みですが、稀少植物を守る必要かつ大切な取り組みです。

今後もこのような向島中央公園愛護協会の清掃活動と公園の自然保全の活動の継続は必要ですが、住民の高齢化は防ぎようがなく、活動の継続がだんだん難しくなっています。

愛隣館の職員の方々は大変ご苦労をおかけしますが、住民だけでなく同館利用者の方々、保育園・幼稚園の子供たち

の癒しの場である向島中央公園の環境と自然を守るため、引き続きのご支援をお願いするとともに、京都市には、大切な市の公園を守るため、今まで同様、池のしゅんせつ清掃の継続に加え、今後は、愛護協会で清掃困難な川の一部のしゅんせつをお願いいたします。回数は少なくなりますが、私も時々、向島中央公園を訪れたいと思っています。



▲アオギリ集会 山崎さん・福井さん・矢吹さん(左から)



沖縄から日本の平和を考える集い

近江平安教会牧師 鳥井新平

9月15日(敬老の日)愛隣館研修センターホールを会場にして、表題の集いが開かれた。主催したのは「沖縄から日本の平和を考える集い」実行委員会の市民グループだ。

沖縄から辺野古新基地反対・抗議船の船長金井創さんをお迎えして、一部が金井さんの講演。そして二部が愛隣館館長の平田義さんとの対談というプログラムで行われた。市民150名が参加し、用意した会場が満席で第二会場に配信設備を設けて行われるほどの盛況ぶりであった。お話の中で、マスコミなどで公にされない中で、沖縄離島をはじめ、自衛隊の軍備増強やアメリカ軍との共同演習が盛んに行われている事実に参加者はショックを受けた。そのようなことが可能になるように、既

に法整備と用地・施設の軍利用が可能になっていることは、80年前の住民を犠牲にした教訓がいかにされていないことに腹立たしい思いがした。しかし、このことは単に沖縄に限ったことではなく、日本全国いたるところで、自衛隊やアメリカ軍の戦争に向けての準備態勢が着々とすすめられていることに結



▲金井 創さん

びあわされていることであり、それぞれの地域が団結してこの動きに声をあげていくことの必要性を講師は強調されておられた。また、日常の海上行動においても命を最優先する活動の中から、非暴力で対話的に行われている金井さんの活動に平和を創り出す多くのことを教えられた。会の初めには、伏見を拠点に活動される退職教員のバンドがビギンの曲を披露され、会の終わりには、沖縄出身の三線奏者が沖縄の音色を響かせてくれた。二部のはじまりには、私が「金井さんと平田さん」という新曲を披露し、会場を沸かせた。これは京都の地から沖縄と連帯する市民と宗教者が協同で取り組む大きな第一歩である。



▲左:平田 義 右:金井 創さん

重なり合う困難から見えるもの

～性別と障がい、その2つが重なるときに生まれる

“不平等の現実” から、私たちの暮らしを考える～

2025年11月17日(月)に障害理解の普及・啓発事業として「重なり合う困難から見えるもの～性別と障がい、その2つが重なるときに生まれる“不平等の現実”から、私たちの暮らしを考える～」をテーマに DPI(Disabled Peoples' International) 女性障害者ネットワーク代表の藤原久美子さんに基調講演をしていただきました。

藤原さんは、34歳で糖尿病性網膜症により失明されます。その後、結婚され40歳で妊娠した際に、医者や親戚から中絶を勧められるということがあったそう。その理由の一つは「障がいのある子どもが生まれるリスクが高い」こと、もう一つが、「母親に視力障害があつて育てられるのか」ということだった。

小さい頃から女の子は結婚して子どもを産むことが幸せだと言われ育てられた藤原さんだったが、リスクがあると中絶を勧められ、親戚からも反対されることで、お腹の子どもまでもが否定されているように感じたと言っていました。「おめでとう!一緒に育てていこう」、「サポートするよ」と言った言葉があれば強い気持ちで乗り切れたはずだったという話を聞いて、障害があってもなくても出産は嬉しい気持ちもあるが不安もある中で、周囲からそのような言葉を浴びせられた藤原さんの気持ちになるとすごく心が痛くなりました。当時はその言葉が悲しかったということだけで「差別」とは思っていなかったのですが、DPI 女性障害者ネットワークとの出会いで、これが「複合差別」ということに気が付いたとのことでした。

後半は日本自立生活センター代表であり京都 SARA(性暴力被害から回復する仲間の会) 支援員の香田晴子さんと、京都頸椎損傷者連絡会会長であり京都 SARA 支援員の村田恵子さんから京都での活動報告がありました。京都 SARA に障害のある女性が当事者として支援員としているのは京都が先駆的であるとのこと。まだまだ知られていないかもしれませんが、もっと広がって、相談するハードルが下がればと願われています。京

都 SARA には当事者の相談員がいることをもっと広報していくことで安心して障害がある方も相談出来るのではないかというお話がありました。

その後には、トークセッションもおこなわれました。会場から、筋ジス病棟等の医療現場や入所施設などにおいて、望まない異性介助がある。声をあげないとその問題性に気づいてもらえない現実があると話されていました。

「障害のある女性の困難～複合差別実態調査とその後10年の活動から」という冊子に全国の女性障害者の声が集められています。その中にも、医療現場等での望まない異性介助の話があがっていました。人手不足など色々な課題もあるかとは思いますが、「性」が大切にされる社会になればいいと感じました。

女性×障害の複合差別についてたくさん考えさせられる時間になりました。

ご登壇いただいた皆様、本当にありがとうございました。

記：支援センターあいりん 堀田 明穂

障害のある女性の困難

～複合差別実態調査とその後10年の活動から

2023年6月
DPI 女性障害者ネットワーク

集会のお知らせ

2・11 平和を考える集い

2026年2月11日(水)

10:00-12:00 於：愛隣館ホール

「外国にルーツのある子どもたち」

講師：許燕華さん（京都文教大学講師）

みんな食堂

2026年2月28日

「芋煮（いもに）会」

於：むかちゅうひろば

皆様のお越しを
お待ちしております！

なつやすみ平和映画上映会

「ノー・アザー・ランド」

故郷は他にない

8月11日(月) ①9:45 ②14:30 ③18:00

破壊される故郷を撮影し続けるパレスチナ人青年と、彼を支えるイスラエル人青年。敵同士だったはずの2人の“命がけの友情”が生んだ奇跡のドキュメンタリー。

3回上映、88名の参加があり、テレビや新聞では計り知れない現実に触れることのできる映画に、参加された方々の心にもメッセージが届けられたと感じる上映会となった。



新愛隣館建設後の募金のお願い

～インクルーシブ社会の実現を！～

2021年4月より、新愛隣館に戻ってまいりました。建築費用は、自己資金と借入金のみで賄っております。つきましては、皆さまからのお支えを引き続きお願いしたいと思っております。これまで、多くのお支えをいただいておりますが、重ね重ねのお願いで恐縮ですが、何卒よろしくお願いいたします。

<寄付金振込先> 寄付控除が受けられます

郵便振替：01020-5-39321

口座名義：社会福祉法人イエス団愛隣館研修センター

* 募金目標額：5百万円

「言葉」

俺は
俺の本心を
俺の言葉にしたかった
喉につかえているものを
洗いざらい吐き出したかった
だがいざ書こうとすると
俺の理性が
俺の言葉を封じてしまった

なぜ
思ったことがいえないんだ
どうして
自分自身を欺そうとするのだ
人に嫌われるからか
介護者が居なくなるのが怖いからか
それで酒を飲んでごまかしているのか
言いたいことも言えないで
それが障害者の自立なのか

柏木さんの
魂に
触れる

◆コメント：中村珠奈さん

自分自身、話すこと、書くこともできるが、
「なぜ思ったことがいえないんだ」のところに共感した。

2025年7-11月の行事報告

7月20.24日/8月3日	喀痰吸引第3号研修
7月31/8月7日	『遊隣』海企画
8月3日	二ノ丸学区社協夏祭り
8月6日	平和の集い
8月11日	平和映画上映会
8月14.21日	『遊隣』クッキング企画
8月16-17日	向島伝道所キャンプ
8月23日	みんな食堂
9月24日	法人京都ブロック研修会
9月28日	元気バザール
9月29日-10月4日	BBQ Week
10月26日	向島まつり（やきそば&ちぢみ&…）

編集後記

▼12/30-1/4まで休館日とさせていただきます▼みなさまからのご意見、ご感想お待ちしております（さ）

▼日本に初の女性の総理大臣が誕生した。女性が日本のトップに立ったのだ。家父長制的な社会に蔓延される日本が進歩的な変革がなされたように見えるかもしれない。しかし、実態はどうだろう。高市早苗首相のこれまでの言動からは、彼女自身が家父長制を支持していると思わざるを得ない。また、国会での台湾有事に関する発言は、中国からの辛辣な批判ばかりが取り上げられるが、本質は、日本が積極的に武力行使を行う国に舵を切ったととれる問題発言なのだ。あと、高市内閣の肝いり政策が「外国人」対策だ。排外主義を煽る危険性を孕んでおり、真の意味での共生社会を目指す政策とは程遠い。私たちは、人のいのちがまず大切にされ、一人一人の人の権利が守られ、違いを認め合って共に生きることのできる社会をつくりだそう。（ひ）